| 学校番号 | 2004 |
|---|---|

# 令和８年度　美術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術表現α | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この時間は、主に鉛筆デッサン・色彩構成の基礎分野に取り組みます。
基本的な形の物を中心に、形や質感などをよく観察して描きます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】基本となる物の形態や明暗の秩序を把握する力、描写力を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】質感を観察し鉛筆で表現する。
【学びに向かう力、人間性等】より良い作品を作ろうと創意工夫する。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 素描での鉛筆の持ち方、削り方、体の構え方から学び、基本的な姿勢を定着させる。表現材料の特性について理解を深めるとともに、球体、直方体、円柱など基本的な形の対象物を深く観察しながら表現するための知識を習得する。表現を工夫しながら的確に対象物を描写する基礎となる技能を身につける。 | 観察したものを把握する力、自己の表現力、描写力を高めるために創意工夫する。対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。<br>鑑賞においては作品を言葉で批評し合うことで思考力、判断力、表現力等の力をつける。 | 正確に対象物を捉えて表現するための描写力を高めることで、より高い自己の造形表現を追求する態度を養う。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 鉛筆デッサン | 鉛筆の削り方と機能<br>立体の陰と影<br>鉛筆デッサン<br>　七角錐<br>　紙コップ<br>合評 | a:鉛筆の特性を理解し活用することができる。<br>b:モチーフをよく観察し立体感や面の違いを表現することができる。<br>c:より良い作品を制作しようと鉛筆の角度や強さ濃さなど探りながら取り組むことができる。<br>合評で出た話を次以降の制作に活かすことができる。 | 作品 | 作品 | 制作の様子<br><br>合評の様子 |
| | | 身近なものの色彩構成<br>　木の桝<br>　ガラスのビン<br>　タオル | a:絵具の特性を理解し活用することができる。立体を理解し作品に表現することができる。<br>b:モチーフをよく観察し、面として捉えることができる。モチーフに合った質感表現ができる。<br>c:より良い作品を制作しようとし、画材の特性を探りながら取り組むことができる。<br>合評で出た話を次以降の制作に活かすことができる。 | 作品 | 作品 | 制作の様子<br><br>合評の様子 |
| 後期 | 鉛筆デッサン | 複数モチーフの鉛筆デッサン<br>　長いもの<br>　平たいもの<br>　質感の違うもの | a:鉛筆の特性を理解し活用することができる。立体の形の取り方を理解し作品に表現することができる。構図の取り方を理解し、自身でモチーフを組み合わせることができる。<br>b:モチーフをよく観察し立体感や面の違いを表現することができる。自身のねらいに合わせてモチーフを構成することができる。モチーフに合った質感表現ができる。<br>c:より良い作品を制作しようと鉛筆の角度や強さ濃さなど探りながら取り組むことができる。<br>合評で出た話を次以降の制作に活かすことができる。 | 作品 | 作品 | 制作の様子<br><br>合評の様子 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度